

八丈島 水産だより

5月号
2022年



4月～5月は年間を通して見ると降水量が少なめで気温も暖かいので、比較的過ごしやすい時期と言えます。そして、5月5日は子どもの日です。この時期、八丈島の榎立地区では山と山とをつなぐ壮大な鯉のぼりが、爽やかな風に乗って気持ちよさそうに泳ぐ姿を見ることが出来ます。環境の変化による疲れが出やすい時期ですが、柏餅を食べて、夜には邪気払いにもなるとされている菖蒲湯に浸かり、心と体をリフレッシュしてみたいかがでしょうか！

最近の漁模様

近年、全国的にカツオの漁獲量が少なくなっていると言われていますが、八丈島も例外ではなく、今年も非常に少ない状況となっています。今年の春トビ漁は3月下旬から始まり、昨年と同程度の漁獲が確認されています。また、底釣漁ではキンメダイが多く漁獲されています。冬の時期が終わり、これからは海況が安定してくることが多いので、出漁日が増え、多くの魚種の豊漁を期待しましょう。



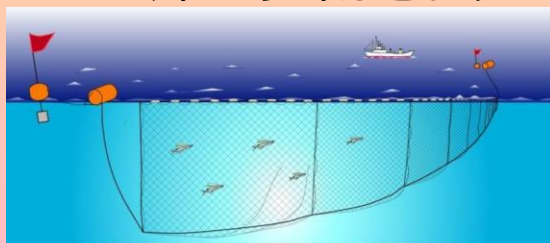
←カツオ

キンメダイ→



←ハマトビウオ

ハマトビウオはどうやって獲るの？



とびうお流し刺し網



網目の大きさはトビウオの頭のサイズに合わせてある。

※網目より小さい魚はかからないようになっている。

ハマトビウオは八丈島では「流し刺し網」という漁法で漁獲されます。この漁法は魚の通り道を遮るための大きな網を潮の流れによって流し、泳いできたトビウオが網目に刺さったところを漁獲するという漁法です。昼間だと網が魚から見えちゃうため、春トビ漁は夕方に出発して、翌朝に帰ってくるという夜のお仕事となります。漁師さんたちは寝不足となり体力的にも大変な作業となりますが、春トビ漁の期間は限られているので、頑張っ漁に出ています。